

# 第8回第5次市民自治推進会議

## 会 議 録

日 時：2024年12月3日（火）午後6時開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 4・5号会議室

## 1. 開 会

○事務局（藤田推進係長） お時間となりましたので、第8回第5次市民自治推進会議を開催いたします。

事務局の藤田と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、お手元の次第に沿って進めたいと思います。

次第1の議事です。

ここからは鈴木座長にお願いしたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

## 2. 議 事

○鈴木座長 皆様、おばんでございます。

本日も、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

慣例に従いまして私が議事進行を務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、議事に入ります。

まず、前回の9月26日開催の第7回会議では、未来の成人式を考える市民会議の内容(案)について、また、新たな市民参加手法などの運用ルールの検討の2点について議論を行いました。本日は、前回の議論を踏まえまして、最初に議事にございます(1)未来の成人式を考える市民会議の開催結果(概要)について議論を行ってまいりたいと思います。

それでは、事務局より資料の説明をお願いいたします。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 議事1に関し、資料に基づいてご説明させていただきます。

大変恐縮ではございますが、情報量がかなり多くなっておりますことから、内容を三つの固まりに分けてお話しさせていただきたいと考えております。

資料上も右上に資料1-1と振っているものから1-3まで3分割してございます。

三つのうちの一つ目は、会議の概要、開催までのスケジュールなどの情報、二つ目は市民会議の情報提供、運営に関するアンケートの調査結果のご報告、三つ目は成人式に関する調査結果のご報告となっております。

それでは、資料1-1と記載の資料からご覧ください。

まず、1ページの開催概要についてです。

第5次市民自治推進会議が企画しました未来の成人式を考える市民会議については、10月27日、11月4日に札幌グランドホテルのクリスタルホールにて開催いたしました。

この会議の目的は、まず、成人式のあり方の検討結果の活用、市民参加の仕組みづくりで、内容としては、サイレント・マジョリティーの掘り起こしと参加者の意識の変化を検証するという二つでした。

会議のテーマは、今後、成人式はどのような姿を目指していくべきかでした。そして、

三つの論点を設け、一つ目は成人式の方針、二つ目は実施主体、開催場所、内容、三つ目は財源の確保であり、各論点に関連する問いを設定しました。

参加者については無作為で抽出した市民の方であり、2日間で計82名にご参加をいただきました。参加者には、事前送付した資料をご覧いただき、当日、会場では、市の職員や成人の日行事の運営に携わっていただいている地域の方から成人式に関する様々な情報提供を受けた上でグループごとにご議論をいただき、アンケートを複数回行い、それらに回答していただきました。

左下に参考までに実施体制の模式図を掲載しております。

札幌市が主催しましたが、開催に当たっては、名古屋大学大学院の三上直之教授からご協力を、それから、情報提供者として各区の成人の日行事実施委員会の地域の方にもご尽力を賜りました。また、当日は、委託業者とその業者が用意したファシリテーターが会議を進行しております。

ページをおめくりいただきまして、2ページの開催までのスケジュールです。

事務局におきまして、市民自治推進会議における企画の検討状況や決定した内容などを考慮しながら各調整を進めてまいりました。

上から1段目の参加者については9月の月上旬から下旬にかけて募集し、10月に入って申込みのあった方から抽せんを行い、月上旬には参加を決定して、通知でお知らせしております。その後、会議開催の1週間前には参加予定者のご自宅に届くように、会議の趣旨や成人式に関する内容などを記載した資料を事前送付し、ご一読をいただくように依頼しました。

次に、2段目の地域の方、これは成人の日行事に携わっていただいている方々を指しますが、9月以前の5月から7月の段階から、各区において成人式に関する課題などのヒアリングにご協力をいただきました。その後も市民会議当日に流すための情報提供の動画の撮影や当日の全体会議へのご出席などのご協力もいただいております。

次に、その下の会議運営者とファシリテーターについてですが、9月下旬以降、複数回の打合せを行いました。ファシリテーターに関しては、メインの司会を務めていただいた方と10月上旬に1度の打合せをし、テーブルファシリテーターも含めた全体での打合せも会議の直前に1度行い、グループ討論の手法や全体の流れの確認などをしました。

次に、その下の議会関係ですが、10月23日に行われた第3回定例市議会の決算特別委員会において、この市民参加の仕組みづくりの手法の検討状況について関連の質疑が行われました。また、会議の直前には各会派に市民会議の資料を参考に配付し、開催の周知も行っております。

最後に、市役所内部については、各区役所をはじめ、関係部に会議の趣旨説明や情報提供の依頼などを行う中で市民参加の仕組みづくり自体に関する周知も併せて行っていました。

ページをおめくりいただきまして、3ページの申込者についてです。

5月から6月に実施しました19歳向けアンケートの対象者が3,000人に加え、新たに18歳以上79歳以下の市民3,000人を無作為に抽出し、計6,000人に対して市民会議への参加案内、申込用紙、そして、事前に行った市民アンケートの結果の概要を郵送しております。募集期間は9月11日から30日までとし、紙かオンラインで申込みを受け付けたところ、計226名の方が参加を希望されました。

次に、申込みのあった方の特徴です。

資料左側の性別、年代、居住区別の構成をご覧ください。

年代について、案内数に対して若い方からの申込みがやや少なかったという特徴が挙げられます。若い方というのは10代から30代までの方ですけれども、特に米印の1のところですが、10代、20代で申込みのあった方は86名いらっしゃいますけれども、19歳向けアンケートの対象者からの申込みは71名となっております。逆に、もう一つのグループの3,000名からは15名からしか申込みがありませんでした。

次に、性別ですが、女性の割合が男性よりも高かったということが挙げられます。札幌市の人口構成でいえば女性が多いのですけれども、それと比べても今回の申込みは女性のほうが多かったということが分かっております。

次に、右側の職業別の表です。回答を分類しますと、職業に就かれている方が全体の4割、通学をしている方が全体の3割でした。10代、20代からの申込数が多かったことから、学生の方からのご応募が多かったものです。

ページをおめぐりいただきまして、4ページの申込者についての情報の続きです。

申込み方法については紙とオンラインの約半数ずつでしたが、特徴として、若い方はやはりオンラインが多かったということ、それから、高齢の方は紙を選択する傾向が見られました。

次に、申込み理由についてです。表にも記載しておりますけれども、最も多かったのは市民会議に興味があるからとお答えのあった方で、約4割となっております。次いで謝礼があるから、成人式に興味があるからといった順になっております。特に、若い方については謝礼があるからとご回答された方がほかの年代と比較して多かったです。

次に、ワークショップへの参加の経験についてもアンケートで伺っています。結果としては、参加経験がない方が83.2%という数字でした。

次に、右側の表ですけれども、地域活動への参加経験についてもお聞きしております。半数以上の方は地域活動への参加経験はありと回答しております。頻度としては、頻繁に、定期的に、たまに、過去に参加したという違いがありますが、それらの方を合計すると半数以上の方が経験があることとなります。

なお、そのうち、過去に参加したことがあるという方が31.4%となっておりますので、今も現在進行形で参加しているという方は2割程度という結果になっております。

最後に、地域への愛着についてもお聞きしております。程度の違いはありますが、8割以上の方に愛着があるとお答えをいただいております。とても愛着があるという回答

割合が最も多く、44.2%、やや愛着があるとの回答割合が41.2%という結果でした。

ページをおめくりいただきまして、5ページの参加者についての情報です。

申込者が226名いらっしゃり、2日間ありましたので、参加者には第1希望と第2希望を選択していただきました。それから、年代、性別、居住区や辞退率は2割程度を考慮し、合計100名、各回50名ずつを参加者に決定しました。

第1回は市の人口構成の縮図をつくるということでミニ・パブリックスの形式とし、第2回については年代ごとの人数を一定にするというオリジナルの形で実施しました。この考え方に基づいて参加者の年代、性別を振り分けております。

当日は、各回41名ずつの計82名にご参加をいただきました。第1回は60代の方の欠席が多かったので、ほかの年代よりも割合が低くなっていますが、そのほかの日程はおおむね想定どおりにご来場をいただきました。

職業とワークショップの参加経験なども参考までに表に記載しております。

5ページでは成人式への参加経験を右下の一番上のところに表を掲載しておりますが、最も多かったのは市外で参加をされた方で、32.9%と高くなっております。次いで市内で参加をされたという方の30.5%であり、不参加だったという方も2割程度いらっしゃいました。

ページをおめくりいただきまして、6ページの会議の流れについてです。

会議はメインファシリテーターの進行の下、テーブルファシリテーターが各グループの議論を支援する形で実施しております。第1回は、年代の異なる7名程度が6グループに分かれ、同じグループで議論をいたしました。第2回は、年代ごとに6名程度が7グループに分かれ、第1部と第2部の議論を行った後、第3部ではいろいろな年代の方を交ぜてグループを形成し、議論をしていただきました。

会議中の情報提供ですが、各論点に沿って、札幌市と地域の方から動画で成人式に関する基礎的な情報、現状、課題などについてご説明をしました。

そして、全体会議では、市の職員のほか、地域の方にも会場までご来場をいただきました。テーブルファシリテーターがそれまでの議論の中で各グループの疑問をまとめ、全体的場で発表して共有し、市の職員と地域の方から回答するというような形としました。

参加者の意識の変容を調査するためのアンケート調査についてですが、第1回は3回、第2回は4回、実施しております。タイミングとしては、まず、会議を始めた直後に、次に、情報提供の直後に2回目を実施しております。

第1回においては、討論が終了した後に3回目の調査を、それから、第2回については、年代ごとで討論した後に3回目の調査を、年代を交ぜて実施して討論した後に4回目の調査を実施しました。

資料にはプログラムを掲載しておりますけれども、第2回のプログラムに関しては、実は当初考えていたものから少し変化させております。第1回の会議の際、事務局としても課題や反省点がございましたので、それらを踏まえ、第2回目のプログラムの調整を行い

ました。

例えば、最初の調査①とオリエンテーションの時間ですけれども、これを2回目では10分程度短くしておりますし、全体会議の前にも休憩をあらかじめ入れるなどして、初回の動きを反映させております。

また、資料の右側には、全体会議で出た質問も参考に掲載しております。質問に関しましては、先ほど申し上げたように、各グループの討論の中で出た疑問点を各テーブルファシリテーターがまとめ、グループごとに発表してもらいました。第1回はその発表にやや時間を取られてしまい、行政や地域の関係者からの回答する時間がやや短くなってしまいました。それを踏まえ、2回目では質問の発表についてはコンパクトにしてもらい、その分、回答にかけられる時間を長くしました。

次に、資料1-2をご覧ください。

こちらは、市民会議と運営に関するアンケートの結果をまとめたものです。

まず、7ページの情報提供に関するアンケート結果からご説明させていただきます。

このアンケートは、会議の当日、地域の方と行政から成人式に関する説明の動画を流した情報提供の時間の直後のタイミングで実施したものです。

上段ですけれども、情報共有資料を事前に読みましたかという質問をしております。

情報共有資料については、会議のおおむね1週間前にはご自宅に届くように郵送しております。全17ページで3部構成になっており、会議の目的、札幌市における成人式の基礎的な情報、市民会議当日の論点について、なるべく内容に偏りが無いように簡潔に記載しました。

この事前に送付した資料に関しては、参加者のうち、約7割の方から全部を読んだというご回答をいただいております。なお、全く読んでいないという方はいらっしゃらなかった。ので、いずれの参加者も少なくとも一度は資料をご覧いただいたということが分かっております。また、全部を読んだ上でさらに興味を持って調べたという方はいらっしゃいませんでした。

次に、その下の情報提供全般についての質問です。

これは、事前送付した資料や当日に流した各論点に関して説明した動画の内容について理解ができたか、分かりやすかったかをお聞きしたものです。

傾向としては、七つの項目があったのですけれども、③を除いて、両日とも4のそう思うを選択された方が5、6割でした。それから、5の非常にそう思うを選択した方も2、3割いました。ですから、情報提供の内容についてはおおむねご理解をいただけたのかなと捉えております。一方で、③の情報提供では異なる視点が公平にバランスよく取り上げられていたかという項目に関しては、3のどちらともいえないを選択された方が最も多かったです。

これらの傾向の要因を探る上で自由記載欄を確認いたしました。すると、例えば、区ごとの意見を全部知らせてほしかった、成人式の予算の使い道がどうなっているのかをもう

少し詳しく知りたかった、あるいは、札幌ドームに関する情報提供をしたのですけれども、その時間が長かったのではないかというような意見がありました。また、情報量が多過ぎて理解に時間を要したというような意見も見られました。

このように様々なご感想をいただいております、限られた時間の中で過不足なく情報をお伝えするのはなかなか難しいと感じました。また、情報のバランスが取れているかどうかについては、参加される方にとっては判断がなかなか難しい上、個人差もあると考えられますので、バランスがよかったと感じていただくための改善や工夫の余地はあるかなと認識しております。

ページをおめくりいただきまして、8ページの会議の運営に関するアンケートの結果です。

まず、自身の考えをまとめるのに役立ったことについてという質問ですが、会議のプログラムなどから六つを項目化し、5段階で評価をしております。

一番高い評価は5の非常に役に立ったですが、5がつけられた割合が最も高かったのが両日とも③のグループ討論でした。平均値で見ると、グループ討論が最も高く、次いで①の市民会議全体という項目が高くなっております。1回目に関しては、⑤の全体会議での質疑応答の平均値が低いということが分かっておりますが、先ほどご説明したとおり、質疑の時間がやや十分ではなかったということが要因として考えられます。

次に、その下のグループ討論についてです。

この設問では、進行役のテーブルファシリテーター、グループ討論での話合いの方法など、11個を項目化し、5段階で評価をしていただきました。

なお、ファシリテーターについてですが、グループ数は、1回目が6グループで、2回目が7グループということで、2回目は1グループが増えております。その関係で、2回目は1名だけ初めて参加するファシリテーターがいらっしゃいましたが、そのほかのファシリテーターは1回目に参加された方に2回目も参加していただいております。

11の項目のうち、5の非常にそう思うという評価をしていただいた割合、平均値が両日とも高かったのは、②の進行役は全員が討論に参加できる機会を適切に作っていた、③の進行役は賛成・反対（対立する意見）の両方を平等に扱っていたという項目でした。

第1回と第2回を参考に比較しますと、第2回は⑥以外の項目で5と評価した方の割合が最も高いという結果になっておりますが、第1回については、⑥から⑩まで4をつけた方の割合が高くなっておりますので、ここに違いが表れていると言えます。

この違いが表れた項目についてです。例えば、⑦のグループ討論でほかの参加者が話したことをほぼ全て理解できた、⑧の自分の意見を述べる十分な機会があった、⑨のほかの参加者は意見が違う場合でも私の発言を尊重してくれた、⑩の議論を独占する人がいなかったというものです。

違った要因として一つ考えられることですが、第2回に関しては同世代だけで話し合うグループ討論の機会がありました。その中で気軽に話し合える雰囲気やお互いに尊重し合

えるような雰囲気がかもしかしたらあったのではないかと、それがこういった評価にもつながったのではないかとということが考えられます。

また、第2回に関しては、第1回を経験したファシリテーターが討論の流れを大体つかめたことも要因として考えられるのかなと思います。例えば、第1回の経験を踏まえ、議論の開始前に、お送りしていた送付資料について、より議論が深まるよう、全員で確認してからディスカッションを始めるといった工夫も第2回では取り入れたという違いがありまして、この点も影響している可能性があると思っております。

ページをおめくりいただきまして、9ページについてです。

まず、上段は、オリエンテーション、全体会議、発表、振り返りなど、各項目について自分の考えに最も近いものを5段階で評価をいただいたものです。

第1回は、ご覧のとおり、4のそう思うを選択する方が多く、第2回は、先ほどとちょっと似たような構図ですけれども、⑤から⑨まで5の非常にそう思うを選択した方が約4割から5割近くとなっております。

この違いが表れた項目についてですが、⑤から⑦まではほかのグループの質疑応答や発表に関する内容で、主にほかのグループに関連することです。それから、⑧は振り返りに関すること、⑨は、アンケート調査の最初と最後の回答を比較する試みを行ったのですけれども、その発表に関する内容になります。

この違いのうち、ほかのグループの発表に関わる項目についてです。第2回では、同世代だけで話し合い、その内容を発表する機会がありましたので、もしかすると、グループごとに、例えば、若い方の考え方の特徴みたいなものが表れて、その考え方を知ることにより、そこから気づきなどを得られる方がいたからではないかと考えられます。

また、振り返りについてです。実は、第1回はファシリテーターがフリートークを促す形で行ったのですけれども、第2回は、振り返りの前に、一度、一日を振り返って紙に文字化する時間を設けました。そうしたことが今日の体験を整理できたという5の評価につながった可能性があります。

そして、最後の投票結果の発表についてです。会議前の調査結果と討論後の調査結果を左右に並べ、違いを比較する内容としておりましたが、これは単純に運営側の慣れの問題があったと考えております。初回はその作業に手間取ったのですけれども、2回目は発表がスムーズだったということが恐らく影響しているのではないかと考えております。

次に、その下の今回の会議に関する意見や感想を項目化し、自分の考えに近いものを5段階で選んでいただいたという問いについてです。

傾向としては、両日とも①の成人式についてたくさんの気づきがあった、④の自分の言いたいことを発言することができたという項目に関し、4や5のそう思うという評価をつけた方が多かったと言えます。特に、第2回に関しては、①と④の項目に関し、41名中40名の方が4か5を選択しているという結果となっております。

そして、⑤の市民会議は市民意見を市政に反映するための効果的な方法だと思うに関し

ましても、第2回に関しては9割を超える方が4か5を選んでいますが、それと比べると第1回に関しては若干低い割合になっておりますが、それでも効果的な方法だと思われたい方の方の割合が高いことは分かっております。

ページをおめくりいただきまして、10ページです。

会議全般に関わる各項目について5段階で評価をいただいております。これらの回答の傾向について、紙面の都合上、次の11ページの上部にまとめておりますので、恐縮ですが、そちらも並行してご覧いただければと思います幸いです。

まず、①の謝金の額についてです。今回参加していただいた皆様に1万円の謝金をお支払いしております。両日とも5段階評価で3が適切という選択肢だったのですけれども、3を選択された方が最も多くなっております。特に、第2回に関しては8割を超える方が3の適切を選択しております。

次に、②を飛ばしまして、③のあなたは普段市政に対して意見を言うことがありますかという問いについてですが、半数以上の方が1の全く言ったことがないを選択されております。また、平均値で見ましても、両日とも2を下回るというような結果になっておりまして、ふだん市政に意見を言う機会がない方が多くこの会議に参加していたということが分かっております。

次に、④の今回の会議をきっかけに、今後札幌が抱える課題の解決に向けて自分も意見を言ってみたいと思いませんかという設問についてです。第2回の参加者は7割の方が5段階評価で4か5をつけておりまして、言ってみたいという考えの方が多いたということが分かります。一方で、第1回に関しては4と5をつけた方の割合が合わせて48.7%でして、第2回と比較すると低くなっておりますけれども、半数近い方がこの会議をきっかけに市政に対して意見を言ってみたいと思ったということになります。

また、⑤は会議の前後で成人式に関するご自身の考えに変化がありましたかという設問です。両日とも8割程度の方が5段階評価で4か5をつけておりまして、多くの方が自身の考え方の変化を感じられたという結果になっております。

そして、その要因について尋ねた⑥の設問です。一番下に記載しておりますけれども、グループ討論を選択した方の割合が最も多くなっております。さらに、⑦の今回の会議の満足度を教えてくださいという設問ですけれども、両日とも5段階評価で4の満足、5の非常に満足しているを選択された方が85.4%で、満足された方の割合は多かったと言えると思います。

最後の⑧は、今回のような会議に参加する機会があれば、また参加したいと思いませんかという設問ですけれども、5段階評価で4から5をつけた方は、第1回が75.6%、第2回が90.2%となっております。

ページをおめくりいただきまして、11ページです。

一番上は、今申し上げた10ページの回答の傾向をまとめたものです。

その下は参加者アンケートからの自由記載を、その下ですが、ファシリテーターの方に

も会議開催後に会議に関するアンケートを実施しておりまして、その一部を抜粋しております。

参加者に関しては、様々な年代の意見を聞くことができている機会になった、初めて市に対して自分の意見を言うことができたというような肯定的な意見が多く見られております。その一方で、一番上にあるように、同年代の意見をもっと聞きたかったというような声や上から四つ目ですけれども、何かよく分らない中で終わってしまいましたというような意見もありました。

また、ファシリテーターの意見に関しましては、1日目と2日目の違いに関するものを抽出しておりますけれども、2回目の同年代でのグループディスカッションのほうがスムーズに意見交換ができていたのではないかと、逆に、年代をミックスした効果が感じられなかった、最後まで同年代で議論してもよかったのではないかとという意見もあります。

なお、資料に記載してはいたないのですけれども、ファシリテーターの皆様からは、事前の打合せの時間が足りなかったというような意見が多く寄せられましたので、この点は私どもとしても反省すべき点として今後に生かしていきたいと考えております。

最後に、資料1-3に基づき、成人式に関するアンケートの調査結果をご報告します。

12ページは、論点1として設定した成人式の方針に関連する問いです。

まず、成人式の必要性についてですが、廃止したほうがよいを1、継続したほうがよいを7とし、自分の意見に近いものを選択していただきました。紙面の都合上、平均値だけを記載しておりますけれども、両日とも継続寄りの意見が多かったところです。

参加者の意識の変化に関しては、少しでも分かりやすいようにということで、矢印を表記しておりまして、赤い矢印は一つ前の調査から数値が上がったもの、青い矢印は下がったもの、黒い矢印は横ばいのものであります。両日とも、討論後に数値が上がっているということが分かるかと思えます。

なお、委員のお手元には変化が分かるグラフを掲載した資料を参考にご用意しておりますので、適宜、ご参照をいただければと思えますが、この設問に関しては、7の継続したほうがよいを選択した方が両日ともに増加しており、第1回が48.8%から61.0%、第2回は48.8%から63.4%に増加しております。

次に、下段の重視すべき点についてです。

成人式を実施する上でどのような視点や考え方を重視するのがよいと思えますかという問いで、10個の項目に対して重要度を1から7の7段階で評価していただきました。掲載している表には討論後の平均値が高い項目から順に並べております。結果として、両日とも最も重要度が高いとされたのは出席者の満足度でした。逆に、最も低い評価になったのは厳粛な式にすることという項目でした。

参加者の意識の変化について、傾向として言えるのは、第1回に関しては、情報提供後に多くの項目で数値が会議前より上がっていること、逆に、討論後は下がる項目も多くあったということです。第2回に関しては、同じように情報提供後には上がっている項目が

多いのですけれども、討論後はまちまちで、傾向は捉えられないというのが事務局としての考えになります。

ページをおめくりいただきまして、13ページです。

論点2のうち、実施主体と開催場所に関する設問を掲載しております。

まず、実施主体ですが、成人式の運営を誰が主体的に担っていきべきかを五つの選択肢から選んでいただいた結果です。両日とも地域と行政と新成人による実行委員会を選択する方が大幅に増加しております。現状は地域主催で開催されておりますが、地域という選択肢と、地域と行政という選択肢は減少しております。

なお、最も多かった地域と行政と新成人による実行委員会の選択肢については、第1回は情報提供後に微増した程度でしたが、討論後には大きく増加しております。逆に、第2回は情報提供後にやや減少しておりますけれども、討論ごとに増加したという経過をたどっていることが分かっております。

次に、下段の成人式を開催する場所については、区ごと、1か所に集まっての合同開催、二、三区が集まって合同開催という三つから選択していただいた結果、開催前後を比較すると、両日とも区ごとがよいという意見が大幅に増加しております。一方で、1か所に集まって合同開催を選択した方は減少しております。

なお、区ごとの選択肢に関しては、第1回は変化がありませんでしたが、討論後に大きく増加をしております。第2回は情報提供後に微増しまして、討論を通じて徐々に増加したということが分かっております。

ページをおめくりいただきまして、14ページです。

論点2の続きですけれども、上段は内容についての設問です。

成人式について、どのような内容を特に重視するのがよいかということで、成人式で実施されている内容について六つの項目を選択肢として用意し、重要度を7段階で評価していただいております。

掲載順は討論後の平均値が高い順になっておりますが、両日とも同じ順位、項目になっておりまして、最も高かったのは参加者同士が会話を楽しめる場の設置、逆に、一番低かったのは来賓からの祝辞でした。

第1回については情報提供後にややポイントを下げるもののほうが項目としては多かったのですけれども、討論後にはポイントが上がるものが多かったということが言えます。第2回に関しては、傾向としては一概には言えないような結果になっておりまして、分析をし切れておりませんが、内容については今申し上げたようなものとなっております。

それから、論点3の財源に関する設問です。

成人式を実施するための財源を確保していくために、誰のどのような取組が特に重要だと思いますかという設問で、優先順位を1から6で選択していただいております。この資料に掲載しておりますのは優先順位1位の結果のみとなります。変化ですけれども、市が補助するが一番重要だと回答していただいた方が最も多く、会議前後を比較すると増加し

ております。逆に、優先順位が一番低かったのは、この資料上にはございませんけれども、式の参加者が参加費を負担するというものでした。

ページをおめくりいただきまして、15ページです。

最後の設問ですけれども、論点3の補助金に関してです。

この設問については、地域に対する市からの補助金の額は運営費全体のどの程度であるかと思いませんかということで割合を選択していただいたものです。現状は6から7割ですけれども、この会議前後を通じて8から9割という意見が増加しており、逆に、6から7割という意見は減少しております。

その下には、あなたが考える理想の成人式について、最後の調査にだけ自由記載欄として用意したものであり、その一部から抜粋しております。

全体の傾向としては、記憶に残るもの、思い出に残るものがないのではないかとというふうな記載をされた方が多かったと考えております。一方で、ここに記載しているとおり、今のままでいい、成人式にこだわる必要はないと記載していただいた方もいらっしゃいました。

16ページがまとめです。

市民会議の目的は二つありましたが、まず、市民会議の運営に関するまとめといたしましては、サイレント・マジョリティーの市政参加を促すことにつながったのではないかとしております。

内容としては、ふだん市政に対して全く意見を言ったことがないという方が半数以上参加した中で、会議後には同じような会議があったらまた参加したいと感じていただいた方が多数いたことに加えまして、第2回では、会議をきっかけに、今後、市政課題の解決のために意見を言ってみたいという方が7割だったことから、サイレント・マジョリティーの掘り起こしにつながったものと考えております。

もう一つは、会議への参加を通じて参加者の意見の変容を探ることが目的であったのですが、アンケート調査の結果からは、情報提供やグループ討論を通じ、様々な説明、そして、自分と異なる意見に耳を傾けることで個人の意見が変容していったということが確認されたと考えております。

また、市としても、一般市民の方が様々な情報提供を基に熟慮され、考えを変化させていく中で最終的に選択した結果を実際の施策、今回は成人式ですけれども、その検討に生かすことのできる貴重な意見を収集できたと考えております。

その下は各論点、成人式に関するまとめと市としての現状の考え方を記載しております。

論点1の方針ですが、今後も継続すべきというような意見が多かったので、継続したいと考えております。ただ、今後は、いかに参加者にとって参加しやすく満足してもらえるような式にするかが重要だと考えております。

論点2は、主体、場所、内容という項目でしたけれども、新成人の方にも企画などの段階からぜひ参加していただき、意見を取り入れる仕組みの構築が必要ではないかと考えて

おります。

また、論点1の結果にも関連するのですが、参加者の目線で企画などに参加していただいて意見を式に取り入れていく仕組みです。現状、こういったものが札幌市内で行われている成人式にはあまりありませんので、今後、こういったことを地域の方々とも協議しながら検討していきたいと考えております。

最後の財源の確保について最も多かった意見は、市が補助する、それも8割、9割ということでしたので、寄附金の活用なども視野に入れ、財源の確保策を具体的に検討していくことが必要になると考えているところです。

長くなりましたが、議事の1についての説明は以上です。

○鈴木座長 非常に分かりやすいご説明を誠にありがとうございました。

また、2回の市民会議の中で複数のアンケートを行ったにもかかわらず、非常に膨大なデータを非常に分かりやすく分析し、資料を作成していただいたことに心より感謝申し上げます。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

冒頭に、私から感想を申し上げたいと思います。

今回、成人式というテーマを基に2回の市民会議を違った形で開催しましたけれども、この市民会議の取組は非常に有意義であったのではないかなと思っております。

皆さんも感じておられるかもしれませんが、例えば、4ページでは、申込みの理由として、「市民会議に興味があった」、「成人式というテーマにも非常に興味があった」という回答が出ていました。また、2番目に謝金というものもありましたけれども、これも参加する背中を押すきっかけになったのかなと思っています。

また、私も傍らでずっと拝見しておりましたけれども、例えば、8ページにある「グループ討論が非常に役立った」、9ページにある「非常に理解が深まった」というものです。1回目と2回目で多少の差はありましたけれども、「理解が深まった」、「気づきがあった」というようなアンケート結果も出ております。また、10ページには、「普段は意見を言わない」という方が多い中、「今後は言いたい」という回答も増えていきますし、考えの変化も見られます。それに、満足度も高く、「このような機会があればまた参加したい」というような回答も多かったところです。

それから、今回、考えや意識の変化が結構読み取れましたので、これが有意義であった一つの大きな要因かなと思っています。グループ討論が考えの変化の一番の要因だったという回答がありましたので、私は実験という言い方はあまりしたくないのですが、こういった試行の取組は非常に良かったのではないかなと思っています。

皆様から、ご意見や気づき、ここに注目すべきではないかということがありましたらぜひ発言していただきたいと思っています。また、私も、当日、市民会議に参加させていただきましたが、委員の皆様にもご都合がついてご覧いただいた方がいらっしゃいますので、当日の雰囲気や気づきなども併せてご発言をいただきたいなと思います。

何かご意見等がある方はいらっしゃいませんか。

○梶井委員 まず、本当に膨大な資料をまとめていただきまして、ありがとうございます。お疲れさまでした。

私は、午前中に参加させていただきましたけれども、最初ということで、スタッフ側も緊張していましたし、ファシリテーターも緊張していて、参加者も緊張しているというような雰囲気だったなと思っております。

それはさておき、2点について申し上げたいと思います。

感想にもありましたけれども、情報提供のあり方に関して、少し評価が低いとあります。これは私も同じように感じています。札幌ドームの情報提供が本当に長くて、バランスが悪かったと思います。札幌市は札幌ドームを推しているのだなというふうに痛くもない腹を探られるみたいな感じでした。そうではなかったのだと思いますけれども、札幌ドームの情報提供があまりにも長かったので、ここを使ってほしいということなのかなと思わせてしまったところがありましたし、それを参加者が察知したのでしょうか。それもあり、こういう会議ではバランスよく情報提供をするということが一番重要なのだなと感じました。

それから、2点目ですけれども、市民会議の満足度は2回目が高いわけですね。2回目は、世代別の討議があって、それですごく話しやすかったということがあって満足度が高く出たのだと思うのです。しかしながら、項目にもよりますが、意識変容が大きく出ているのは1回目だと思うのです。

例えば、14ページの市が補助する財源についてです。第1回だと、会議前と討論後では15.5ポイント上がっているのです。しかし、第2回だと4.9ポイントしか上がっていません。要するに、最初と最後の変容が大きく出る項目が多いのは1回目だと思うのです。

2回目は、同じ世代の人との話し合いで意見も言いやすかったし、自分が思ったことを補強されたというのでしょうか、思ったとおりであったみたいな、それで満足度が上がったのかもしれないなと思いました。1回目は異質な他者との意見交換の機会が多かったので、自分の意見が通るとも限らないし、やっぱり壁を感じて言いにくいところもあったのでしょうけれども、その反面、意識変容をする可能性も高かったという解釈もできますし、一概に2回目の満足度が高かったから、それがよかったとも言えないのではないかなと感じました。

○鈴木座長 ほかにございますか。

○片山委員 今回は、私自身、とても勉強になりました。市民会議やワークショップのやり方に注目していたのですね。2日間とも午後だけ参加して、きっと午後は違うだろうなと思って参加したのですけれども、2回目に会場に行ったら空気が全然違って、温かい感じで、声のトーンも違いました。

二つほど原因は考えられるのですが、まず、ファシリテーターの人たちが少し慣れ、余裕を持って運営できたからかなと思います。

環境心理学をずっとやっている私としては、自分が周りの環境によってどう作用を受け

たかを考えるのですね。最初に仲間がいて、その仲間の中でそうだよね、そうだよねと確認し、その後、ほかの世代と交ざるのだけれども、一旦、仲間の確認が取れているので、自分一人ではない、仲間代表みたいな安心感を持てたのではないかなという気がします。そういう心理になると、他者の違う意見も割かし受け止めやすいというか、そんなものなのだとなれるのかなという感想を持ちました。

その上で、市民会議の運営に関するまとめです。

運営の仕方として、仲間づくりという話の詰め方をこの会議の考察として出してもいいのではないかと思います。今回は1回目であり、大それたことは言えないのですけれども、そこが重要な視点だと思いますので、これからディベロップしていったらいいのではないかなと思いました。

また、ファシリテーターが企画会議をしっかりとやって、こういうことを何回か重ねてやる場合には、ファシリテーターを一回一回替えないで仲間うちで安心してできる方策があるといいのではないかなと感じました。いずれにしても、大変有意義な実験といえますか、試行だったと思います。

○鈴木座長 そのほかに何かご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

○山崎委員 私は一回も出ておらず、逆に今日の係長の報告を大変興味深く聞かせていただきました。大いに勉強になりました。

最初に、論点ごとに一言ずつコメントをさせていただきます。

まず、論点1の成人式の必要性に関してです。

ここは、こうした実験をする前のある種の仮説のとおりだったのだなと思いました。アンケート調査でも成人式が必要だとは出ていたので、それが実証されたということであるわけですね。その上で、わざわざワークショップをやったことで一段深い考察をすることで引き出せる要因は何なのかなと考えながら聞いていたのですけれども、私にとって新しい発見だったのは、成人式といっても、今どきの若者が求めているものは、軽いというか、カジュアルな、友達とわいわいできるようなものを求める志向です。

12ページに出ていますとおり、厳粛な式にする、伝統文化に触れる、来賓の挨拶などは、全くではないにせよ、望んでいないわけですね。いわゆる学校の卒業式みたいなものではないものを求めているということが非常によく分かりました。今後、どういった運営にしていくのかに関わると思いますし、これから検討する上での一つの手がかりになったなということが面白かったです。

次に、論点2の今後どうしていくのかです。

今後、どういったスタイルとし、どのように参加してもらい、どういう運営をしてもらうのかにつながってくるのかなということです。運営のあり方がどう変えていけばいいのか、もう少し結果を読み込んで何か手がかりが出てくるとよいのではないかと考えています。ここは、私もどういった運営のあり方や運営をするところにどういった形で関わってもらえるかをもう少し読み込んでみたいと思います。

次に、論点3についてです。

事務局やご出席された方にサジェスションをいただければありがたいのですが、市による補助、援助の割合です。討議をやればやるたびに増えていくというのは非常に興味深いですし、意外でした。これはどういったことでこうなっていったのか、お分りの範囲でよろしいので、教えていただければありがたいです。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 結果として情報提供の後よりも討論後のほうがもしかしたら変化が大きかったのかもしれないですが、要因として一つ言えるのは情報提供の中で他都市と札幌市との比較を情報提供したということがあります。札幌市は、どちらかという、予算面では他都市と比べると少なく、しかも、地域が主体としてやっている自治体と比較してもその負担割合は低いという中身がありました。

もう一つ、地域の方のご意見でも市からの補助金の増額を求める声が多かったものから、そうしたものを基に議論していく中で、やっぱり市が補助したほうがいいのではないかというような意見が増えたのではないかと考えています。

○事務局（川村市民自治推進課長） 今の情報に加えて、市の財政状況等も情報提供しています。そんなに余裕がある財政状況ではないのだということも情報提供した中での議論ですので、予算が青天井であるわけではないことも踏まえた上でのこの結果だと思っています。

○山崎委員 面白いですね。考えられることとしては、多分、各区での実行委員の方々がプレゼンして、とにかく大変な実情を説明されるようなところが1回目であって、やっぱりそうだよねというふうに受け止めたということは想像できたのです。では、広く多様な形でお金を集めようというふうに行くかなと思ったら、なかなかそうはいかなかったということなのですね。

春のアンケートのときにはまだこんなでもなかったですよ。市がもっと援助をすべきだ、もう少し資金を提供すべきだというのはそんなに際立って多くなかったような記憶があるので、大変興味深いですし、もうちょっとバックグラウンドを掘り下げて検討できればなと思った次第です。

○鈴木座長 そのほかにいかがでしょうか。

○野田委員 全般的にすごく面白い結果だなと思いました。全般的な傾向としては、情報提供を行った効果がそれほど大きく出ず、その後、討論をして差が出たのだなというイメージで捉えました。

これをどう解釈するかはなかなか難しいのですが、単に情報提供をするだけではなく、誰かの解釈を介さないとなかなか学習しないということなのかもしれませんし、情報提供の仕方に問題があったのかもしれません。でも、全般的にそういう傾向があって面白いなと思いました。

何点かあるのですが、まず、情報提供の内容についてです。

私は当日に参加できなくて申し訳ないのですが、基本、三つの論点について聞いて

ているので、それぞれの論点について、選択肢ごとのメリットとデメリットを示すということであるべきと思います。例えば、市からの補助金がたくさんある場合、デメリットとして他の予算が減りますよということぐらいまで分かっていると、先ほど青天井にみたいな議論がありましたけれども、もう少し財源の話は変わってくるのかなと思います。

要するに、情報提供の仕方、論点に関わる選択肢をいくつか並べて、これをするとこれがメリットになり、これがデメリットになるということをちゃんとと言わなければならなかったというのは前提としてあります。それが正確に伝わったかどうかも前提ではあったということです。

それから、2点目です。

今回、そんなに大きな差はないので、もちろん事務局でご検討をいただければと思いますけれども、通常、割合を出すときは、無回答は含めません。つまり、無回答を除いて割合を出します。無回答というのは、要は発言をしていないので、参加していないという解釈をするのです。無回答の割合があるところについては無回答を除いて割合を出して平均を出すということにする必要がありますので、そんなに大きな差は出ないとしても、恐らく全て計算し直さないと駄目なのかなと思いました。

また、高いか低いかというのは、統計的に検定をしないと云えないです。0.1とか0.2高くてそれは誤差だという解釈を通常はします。でも、0.5や0.7違っていれば高いと言えますけれども、本当は高い傾向があるというぐらいしか言えないのかなという気はしました。

しかも、その比較ですが、全く同じようなグループ間を比較するということができないので、1回目と2回目では、ほぼ同じような構成員の場合は比較できますけれども、おおむね同じ構成であるという前提とした場合、2回目のほうが高いと言うことはできるかなと思いました。今回は、恐らく、1回目と2回目の比較ではなく、同じ人が情報提供の前後、討論の前後で回答しており、同じサンプルなので、完全比較できるかなと思いました。

それから、最後の論点についてです。

私は、十分理解していなかったのですが、論点が三つあって、すごく分かりやすいなと思ったのは、今日の資料ではなく、背景や実施結果が書かれているアンケートや市民会議の結果を示していただいているもので、グラフがざっと三つぐらい載っている調査概要というものです。これは、今後、1月に行われるアンケートと一緒に配ろうとしているものだと思いますけれども、そこで載っている論点の三つと今回の三つが何か違うような気がするのです。

私の解釈が間違っているかもしれないのですが、1月に行うアンケートに同封してお送りするものの論点の1個目は実施主体、2個目が開催場所、3個目が財源ですね。でも、今回ご説明をいただいたものの1つ目は必要性になっていて、2つ目の論点に実施主体と開催場所が入っていて、多分、当初言っていたことと違うのかなと何となく思いま

したので、そろえたほうがいいかなと思いました。

そういう意味では、最後の今回のまとめ方についてもそうです。最後のペーパーの各論点に関するまとめと市の現状の考えでは、もし1月に実施するアンケートの調査結果の概要の論点とするのであれば、論点1については、実施主体は実行委員会方式が最も多かった、論点2については、開催場所としては区ごとが最も多かった、論点3については、市の財源に依存する意見が最も多かったと示した上でアンケートをするのが普通の考え方かなと思いました。私の解釈が間違っているかもしれません。

また、これは感想ですが、12ページにすごく面白い内容がありました。

先ほど山崎委員からお話のあった財源に関する話とはまた違うのですけれども、非常に面白い分析結果だなと思ったのは、1回目も2回目もコストの縮減については会議前から情報提供後で割と上がっているのですが、議論して下がるという感じに見えたことです。こういう傾向のものはほかにはあまりないのです。アクセスのしやすさなど、いくつかはありますし、情報提供の影響があまりないという話もあったのですけれども、情報提供を行うことによってコストの縮減に関する重要度が一旦高まったのに、議論をして、コスト縮減ではなく、お金を使おうみたいな感じになったのは逆に面白いかなと思いました。

議論をしている中で物すごく強い意見を言うとそちらのほうに引っ張られるというのは討論の問題かなと思いますし、討論自体がネガティブに影響する可能性もあるかなと思いました。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 様々な貴重なご指摘をいただきまして、ありがとうございました。

情報提供のバランスについて事務局として言い訳をさせていただくと、我々も、先ほど委員がおっしゃったように、一つの問いに関しては二つの立場があって、例えば、補助金のことでいえば、札幌市として予算は青天井ではない中で必要な事業に予算を配分していく必要がありますというような情報提供もしておりますし、開催場所についても、結果として区ごとが増えましたけれども、ドームの説明が長いという話もありましたが、札幌ドーム以外の場所の情報提供もさせていただいており、偏りがなるべくないように設計したつもりでした。しかし、それはあくまでつもりであって、結果としてはバランスに関してはやや低い数値で表れたということです。

ここは、例えば、市だけではなく、第三者からの情報提供のバランスを考えてもらう、あるいは、参加者からこういう情報提供があったらいいという意見をいただいて、その上で情報提供の仕方を考えるというようなあり方も今後は検討していく必要があるかなと感じたところです。

○事務局（川村市民自治推進課長） 論点の分かりにくさというか、まとまりが変ではないかということについてはご意見を踏まえて考えていきます。

○野田委員 論点については私の解釈が間違っているかもしれません。もう一つの資料で書かれている三つの論点と違うのかなという私の解釈の間違いかもしれませんので、その

点はご了承ください。

○事務局（川村市民自治推進課長） 野田委員の解釈は間違っていないのです。

論点2の中に三つの論点があるというか、論点1は今後どういう方針でやっていったらいいかということなので、そこが今はごちゃ混ぜの状態になっているということはありません。

○鈴木座長 先ほどの情報提供のメリット、デメリットのバランスの件についてです。

あくまでも私自身の感想ではありますがけれども、私自身としてはバランスが取れていたのかなと思っております。

予算の件も、やはり、札幌市の財政が非常に苦しく、あまり余裕がないというのも情報提供によってはっきり分かったと思いますし、それも踏まえつつ、意識がどう変化したのか、今後、さらに分析していく必要があるのかなと思っていました。

先ほどのコストの縮減もそうですし、場所の件もそうですけれども、やはり、札幌ドームの説明が時間的には多少長かったという印象は私も確かに持ちました。というのは、施設の説明から入っていましたよね。あまりよく知らない方もいるという前提の下だったと思うのです。ただ、限られた時間の中でどうバランスを取るかというのは、今後、今回の結果を基に考えていけばいいのかなと思っていました。

次に、偏りについてです。

情報提供後と討論後で少し変化が見られるというのはあったかと思います。これは、経営、マーケティングの世界からの視点になるかもしれませんが、情報提供というのは、動画もありましたものの、あくまでも客観的な情報であると思うのです。それに比較して、討論した後は、いわゆるロコミと同じように人が心を込めて話していましたので、そういった中でそれに影響を受けるといいますか、その影響がやっぱり大きかったのかなと思います。地域の方は、非常に財政が大変な中、お金を集めて企業に協賛をいただくなど、いろいろと考えて企業回りもしたのだけれども、経済状況が思わしくない中、お願いするのも結構大変であったかと思います。それに、去年は出せたけれども、今年はお出せないなんていう話もありましたので、そういったことを聞くことによって、それに影響を受け、市のほうにより多くの負担を求めるといった意見に動いたのかなという印象でした。

ただ、それはあくまでも私自身の感想であって、参加された方がどう受け止めたのかもあるかと思います。どこまで分析できるかは分かりませんが、今後、それも課題としつつ、改善といいますか、やり方を考えていくといいのかなと思いました。

ほかにございませつか。

○大村委員 両日とも会議の満足度が高かったということ、また参加したいという方が多かったことに加えて、10ページの会議の運営に関するアンケート結果のところ、④今回の会議をきっかけに、今後札幌が抱える課題の解決に向けて自分も意見を言ってみたいと思いますかというところに着目しました。

ここで、④と⑤に肯定的な意見を出した方が第1回は5割で、第2回は7割以上という

ことで、今回の市民会議に参加し、ただ学びになった、ほかの世代の方の意見を聞いてよかったという体験だけではなく、市政に自分の意見が言えたという感覚が2回目の方は多くあったのかなと思いました。

ですから、こういった市民会議に参加することで市民会議以外の機会にもまた意見を言ってみようというように次のステップに進める方が多くなるのかなと考えましたし、2回目ではより多くの方がまた意見を言いたいと言っていることは成果としてすごくよかったのではないかなと思いました。

○鈴木座長 それでは、ワークショップの観点でぜひお伺いしたいと思います。

○三上委員 私も、2日間両方とも見学させていただきまして、ありがとうございました。すばらしかったなと思います。

皆さんの意見とほぼ変わらないので、あまり言ってもしょうがないかなと思っていましたが、実施側が真面目に実施していて、それを受け止めて非常に皆さんが真剣に取り組んでいたのが印象的でした。それは、多分、ワークショップに参加したことがない人が8割ということも影響したのかなと思います。そういう意味で、サイレント・マジョリティーの市民としてのマインドをくすぐられたことで、今後、主体性が増してくるのかなということが期待されます。

また、ワークショップ自体が参加者同士の相互作用で議論を深めていくというのも一つの目的でもありますし、非日常でもありますので、そういう場をある程度つくれたのかなと思います。その結果として、参加者（成人式の参加者）を優先するという気持ちが議論の中で湧いてきたので、これを分析し、どの年代の人が変化を起こしたのかを見たときに、多分、10代、20代の方々のそもそも自分たちが主体だったり、参加者目線で実施したほうがいいという意見に対して、親世代なり祖父母世代の諸先輩方が最初の意見から参加者主体のというふうにもしかしたら変わったのではないかと思います。ですから、どの年代が変わったかを分析に入れるとより分かりやすい構図ができたのかなということかなと思いました。これは数字を分析すれば分かると思います。

一方で、テーマが身近であるということ、それから、ゴールのハードルが非常に低かったですよね。要は、意見を集約せず、合意形成を求めない内容で、言い換えると、対立の中で自分たちで決め切るというようなワークショップではなかった、日本人が一番苦手な内容ではなかったので、ある程度うまくいったのではないかという見方もしています。

私は事前準備にちょっと参加させていただいたのですが、テーマとゴールの内容を変えた場合には、プログラムの内容の工夫やファシリテーターの事前準備をしっかりする必要があるのではないかなと思います。

実際に同じ案件でプログラムを2回実施するというケースはもしかしたらあまりないのかもしれませんが。そうすると、1回目にやったのが実は毎回の真実の姿かもしれないですし、場をつくったけれども、実際に平等に意見を述べる機会が少なかったという意見が結構あったので、場をつくっても当日参加し切れないというものを見ながらファシリテータ

一が柔軟に対応していくことが必要です。ですから、後から出てくるのでしょうかけれども、事前訓練といいますか、そういうファシリテーターを札幌市が育てる仕組みづくりなどもあったら面白いかなと思います。

試行としては非常に面白く、私も、見ていて、いろいろとうるさいことも言ったかもしれませんが、ライブ感があってすごくよかったですと思います。

○鈴木座長 お時間も限られた中、一つ目の議題で結構な時間を要してしまいましたけれども、全体を通してここだけは発言したいということがございましたら、1件ぐらいお受けしたいなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○鈴木座長 それでは、(1)についてはこれで終了させていただきます。

続きまして、(2)の第2回未来の成人式を考えるアンケートの実施についての議論をしてきたいなと思います。

それでは、事務局より資料のご説明をお願いいたします。

○事務局(寺川市民参加推進担当係長) それでは、なるべくコンパクトにご説明させていただきます。

本件については、具体的な調査内容について、会議外で確認作業を進めさせていただいております。ご多用のところ、ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

改めて内容についてご説明させていただきます。

今回のアンケートについては、この5月から6月に行った成人式に関する1回目アンケートの追加調査として実施するものです。

これまでの成人式のあり方に関する検討のプロセス、1回目アンケートと市民会議の結果もご覧いただいた上でさらにアンケートへの回答を依頼し、その結果も含め、今後に活用していきます。

1の目的です。

2点ございまして、一つ目は成人式のあり方の検討への活用、二つ目は市民参加の仕組みづくりの検討への活用です。二つ目は、サイレント・マジョリティの掘り起こしという目的もあって、なぜアンケートに回答しようと思ったか、また、1回目のアンケートに回答しなかった方が2回目のアンケートで回答してくれた場合には、その原因についても確認できればと考えております。

次に、市民会議結果の周知とその効果の検証です。

市民会議結果の情報があるグループとないグループに分け、その回答内容の差が確認できればと考えております。

対象は、この5月から6月に実施しました1回目のアンケート、令和7年1月開催の成人式の対象者で、19歳の市民3,000人に2回目のアンケートをお送りするものです。

実施期間は12月下旬から、期間は少し短いのですけれども、1月上旬までです。具体的には、成人式が令和7年1月12日に実施される予定ですので、その前までとしたいという

ことです。

調査方法については、右下の図のとおり、A群とB群に分けて、A群はアンケート結果のみを送付し、B群はアンケート結果と市民会議結果の両方を送付し、1,500人ずつに分けて調査を行います。この回答内容を比較することによって市民会議結果の情報の有無による回答内容の差を確認、検証したいと考えています。

調査内容については、1回目にお送りしたアンケートの質問内容をベースとして、1回目からの意識の変化、アンケート、市民会議結果を周知したことによる効果が確認できるよう、設問を追加する予定です。

○鈴木座長 事前にメールで資料等を送っていただいていますので、もう既にご意見をいただいている方もいらっしゃるかと思いますが、今回、ご意見がございましたらよろしくお願いたします。

事前にA群、B群に分けてというお話がありましたが、今回も1,500人ずつに分けて調査を行うということになっております。

この点について何かコメントのある方はいらっしゃいますか。

○野田委員 あまり追いつけていないのですけれども、二つのアンケート調査票がありましたよね。

○鈴木座長 A群とB群の二つがございます。

○野田委員 どこが違うのか、見ている分かっていないのですが、アンケート調査とこれまでのアンケートの結果だけを渡す、アンケート調査票とアンケートの結果にプラスして市民会議結果を渡すというのが違うというだけで、設問は変えないということでしたか。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 市民会議の結果を送付するグループに関しては、調査票表面の書きぶりのほか、設問についてもA群とB群にお送りするもので変える予定です。

○野田委員 分かりました。

また、気になったことがあります。

回答する人にプロセスを見せる、1回目と2回目というのはいいと思いますけれども、アンケート結果と市民会議の結果をもらっているグループとアンケート結果だけのグループということは一切言わないことが前提だと思っているのですが、それでいいのですか。

ご覧をいただいた上でご回答くださいと言っていますけれども、対象となるグループは一つしか見せていませんよということは分かっていないのですよね。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 実は、その書きぶりは迷っていたのですけれども、結果として2種類の調査を行っていますというような内容の書きぶりに現状の案ではしています。

○野田委員 それは言わないとまずい感じですか。市民に対して、受けた側としては何か違うものが来たよという感じになってしまうということですか。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 懸念としては、調査をした時点では、対象は自分に送られてきた調査票だけに答えるということなのだと思うのですが、いずれ結果を公表したとき、実は2グループに分けていましたということが分かったときに心証としてよろしくないのではないかという点です。

○野田委員 市がやる場合は確かにそうかもしれませんね。普通、研究では絶対に言わないです。薬の治験と一緒に、プラセボか本物の薬か、受けている方は全く分からないという感じにするのですけれども、2種類ぐらいでしたら何をやっているのかは理解できないので、いいかもしれませんね。

もう一つ、アンケート結果というのはこの資料を入れるということですよ。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） おっしゃるとおりです。

○野田委員 情報量が多いので、なかなか差は分からないのかなというのが正直な感想です。

○鈴木座長 引き続き、ご意見やお気づきの点がございましたら事務局までお寄せをいただければと思います。

○事務局（川村市民自治推進課長） 今、分けることについて、あまり差が出ないかもしれないというお話があったと思うのですが、分けなくてもいいということですか。

○野田委員 今回は、きちんと事前の情報収集をできずに参加してしまって申し訳ないのですが、アンケート結果だけをもらっているグループとアンケートと市民会議の両方をもらっているグループの差ではなかったですか。

○事務局（川村市民自治推進課長） そうです。

○野田委員 そうなった場合、どこに差があるかということ、市民会議分の情報を持っている人とそれを持っていないということになりますよね。

ということは、アンケート結果だけを見て回答する人、アンケート結果にプラスして市民会議の結果を見て回答した人となるわけです。そして、例えば、市民会議の結果を見た方としては、主催は区ごとがいいというのが10ポイント高かったなど、そういう差が出てくるということを我々は期待しているのですが、結果概要の資料は結構な情報量ですので、読みこなせるかな、簡単にこういう結果でしたと言い切るようなキーワードがもっと前面に出てもいいのかなと思ったということです。

○鈴木座長 もう少しシンプルに、結果が伝わりやすいような工夫があると望ましいということですね。

○野田委員 そうです。そのほうが差は見えるのです。要するに、物すごくシンプルに伝わるように言ったことによる差が出るか出ないかで、シンプルに言ったけれども、差が出ないという可能性もあるということです。

○鈴木座長 情報のアクセシビリティといいますか、伝わっているかどうかがキーポイントになりますので、委員の皆さんにもご意見をいただきながら改善していただければと思います。

○野田委員 もう一つだけです。

この手のことをやる時、情報を受け取って、それを理解したかどうかということもアンケートに入れることが多いです。ちゃんと確認できたかどうかです。

○三上委員 参考になったかは入っているけれども、理解できたかは入っていないということですね。

○野田委員 そうです。理解をできたかどうかを直接聞くのではなく、それに類するような質問をつけておくという感じです。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 現状の案では、この資料は参考になりましたか程度の聞き方はする予定です。

○野田委員 そういうものがあるのですね。失礼しました。

○鈴木座長 その辺の表現の問題はあるかと思えます。悪いというわけではないのですけれども、また何かご意見があればお寄せください。よろしく願いいたします。

それでは、予定としていた20時は過ぎるかもしれませんが、（3）の（仮称）情報共有と市民参加の推進のためのガイドラインについての議事に進みます。

事務局から資料のご説明をお願いいたします。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 資料3についてご説明させていただきます。

前回の会議では、現在検討を進めていただいている市民参加の仕組みづくりを運用していくに当たってのルールづくりのためにガイドラインを作成してはどうかという説明と、あわせて、その内容のイメージについてお伝えをさせていただきました。今回は、ガイドラインの章立て、記載する内容について、前回にいただいた意見も踏まえ、少しだけですけども、具体化いたしましたので、その内容についてご紹介させていただきます。

その上で、残すところ、この会議もあと2回ですけども、そこでガイドラインの素案をお示しし、詳細を詰めていきたいと考えております。

残り時間も少ないので、大変恐縮ですが、要点だけお伝えいたします。

赤色の字の下線を引いている部分は、前回に指摘していただいたことを反映したところとなります。

まず、第2章の情報共有の推進についてです。

情報提供の方法について、留意点として、個人情報保護の観点についても触れてはいかかというご指摘がありましたので、その点も盛り込みたいと考えております。

次に、第3章の市民参加の推進についてです。

市民参加手法の運用ルールについて、どう客観性を持たせるかが重要ということで、可能な限り具体的なルールを明記したいと考えております。

このルールについてですが、どういった事業にどのような手法を適用するのかなどを具体的に記載したいと考えております。例えば、ミニ・パブリックスという今回行った手法を実施すべきかどうかという判断は、その事業の性質や取り得る市民参加手法の効果、予算の面から十分に考慮する必要があります。そこで、ガイドライン化に当たって、その中

身を検討する必要があると考えておりますので、市民自治推進会議でもご助言やご指摘をいただければと考えております。

次に、第4章の市民と行政の役割についてです。

もともと、市民の役割しかありませんでしたが、行政の役割についても明示しました。行政の役割の赤色の字の下線部ですが、情報共有と市民参加の推進は当然として、さらに、市政課題の今後の解決に向け、市民同士がまちづくりに関して議論し、考えを深めた上で意見を出すというような環境づくりも重要になってくると考えております。そのためには、例えば、札幌版ミニ・パブリックスの実践、さらなる研究、さらには、デジタルプラットフォームなど、デジタルの活用、加えまして、市政課題を題材にし、市民にもファシリテーション技術を磨いていただけるようなワークショップも検討したいと考えております。

最後の評価のところです。

このガイドラインを見直すためには評価のための指標を考える必要があると認識しております。しかし、指標の設定の難しさについては、前回、梶井委員からもご指摘をいただいております。現状ではお示しできるような具体的な案はまだございませんけれども、ガイドラインの評価方法についても残された期間で検討を進めたいと考えております。

○鈴木座長 前回、皆様からいただいたご意見を基に、特にアンダーラインの部分を修正していただいたということです。

ただいまのご説明に関して何かご意見等がある方はいらっしゃいますか。

○山崎委員 前回出ていなくて時間も押している中で申し訳ないです。

これは、自治基本条例とは別にガイドラインをつくるという位置づけですか。

○事務局（寺川市民参加推進担当係長） 1の背景、目的、位置づけのところにあるのですが、札幌市の自治基本条例に基づいて市民参加の機会や必要な情報共有を進めていくためのガイドラインという位置づけになっています。

○山崎委員 自治基本条例に一本化してもいいのかなと個人的には思いましたが、これについては改めてまた議論させてください。

○鈴木座長 そのほかに何かございませんか。

○三上委員 今年、他市の実施状況確認で名古屋の方に行ったときに聞いたお話だと、実際にやってみると、こういう運用は結構大変ではあるということでした。また、やる側である行政の人もいろいろと工夫をする必要があって、市民はもちろん、行政として、担当部署だけではなく、ほかの部署の方もちゃんと使えるような仕組みとといいますか、理解して使い切るといふ他部署の方への意識づけや勉強会みたいなものもすごく大切かなと思ったので、この中に盛り込めたらいいかなと思います。

○事務局（川村市民自治推進課長） 今の三上委員からのお話は、このガイドラインを市役所の中でしっかりと運用できるような体制にきなさいという視点だと思うのですが、それをガイドラインの中に盛り込むのか、この会議体から答申するときそういう視点を盛り込むのか、考えたいと思います。

○鈴木座長 そのほかに何かございませんか。

○事務局（神市民自治推進室長） 脇道にそれるかもしれませんが、今回の市民会議を通じて、私たちが実際にやってみての感想です。

この二つの方法でやったのだけれども、市民の意見を聞く手法として市民会議が非常に有効だったなということは実感できたのです。これからガイドラインづくりを進めるに当たって、こういったものをちゃんと入れていくのだということになっていくと思います。今日の議論の中では細かな話になってしまったのですけれども、こういったことはよかったのですよねという確認をしたいです。

大村委員からも、来た人の満足度が高かった、1回目、2回目で差はあるけれども、全体としては来てよかった、また参加したいという満足度は非常に大切で、こういったことが市民参加したということにつながっていくのだ、だから、こういった仕組みを市民参加の仕組みの一つとしてガイドラインに入れていくのだということかなと思っているので、このやり方がよかったかどうかという明確な皆さんの話が聞きたいなと思っていました。

脱線してしまってすみません。これは後からでも全然構いません。

○鈴木座長 今日はお時間も結構迫ってまいりましたので、後ほど皆さんからご意見やご感想を伺いたいと思います。

簡単に私から申し上げます。

アンケート結果にも出ておりますし、私も市民会議に参加させていただきましたが、1回目、2回目ともに、様々な方々から口々に「結構よかった」、「楽しかった」、「すごい参考になった」など、そういう意見が聞かれました。そういう意味では、実感としても非常によかったのかなと思っています。いずれまた別の機会にでも申し上げたいと思います。

それでは、全体を通して委員の皆さんからご何かございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

### 3. 閉 会

○鈴木座長 私の議事進行の不手際もあり、ちょっと時間が過ぎてしまいましたが、以上をもちまして本日の会議を終了したいと思います。

長時間にわたりご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

以 上